

News Letter

第6号

2003年1月15日発行

第4回失業と健康研究会

家庭は職場ストレスの緩衝地帯

— 2 症例を詳細に検討

今回の研究会は暮れの21日に開催して2事例を
検討した。精神科を受診した症例で、現病歴から治
療経過までの説明があり、その後に質疑応答が行わ
れた。宮の陣病院の児玉英嗣氏からの提示であった。

第1例は32歳男性で「会社に行けない」という。
仕事が忙しく、深夜帰宅、休日出勤の仕事人間であ
る。妻は同僚で、家庭でも仕事の話が多く、逆に本
人は仕事を家庭に持ち込むことを嫌う。社内では相
談する環境がない。このような状況で、不眠、食思
不振、軽度の抑鬱状態になる。薬物療法と支持的精
神療法で1ヶ月の休職後に職場復帰ができた。仕事
人間で、心理相談できる社内環境に乏しかった例で

ある。対策に上司が部下に絶えず注意を払い、また
特定番号の電話を設置して相談しやすくすることが
大切であると結論された。

第2例は36歳男性。技術指導で米国へ4年間出
張し、帰国後現職に就いたが、米国のやり方が通用
しない。家庭では妻とゆっくり話す時間をもてない
といった状況で、不安、焦燥感、不眠、食思不振に
なる。性格は完璧主義などところがある。

職場ストレスには仕事量の多さ、仕事での自立性
の低さ、意志決定の機会の不足、対人関係が関与し、
これに家庭ストレスが加わる。家庭は職場ストレス
の緩衝地帯であることが明らかである。

最近のニュースから

第17回アジア労働衛生カファランス

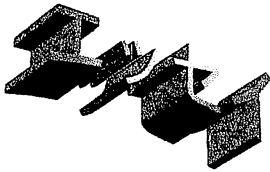
02年11月1-4日 台北にて開催さる

この会議はアジア地区の労働衛生向上のために開催
されているものである。女性の参加者が多く、アジ
アの女性の活性が感じられた。

演題では労働における安全性、健康管理、仕事関
連ストレス、中毒、空気汚染、呼吸器障害、健康増
進策、心理社会的因子など多岐にわたっていた。
すべて就労に伴う労働衛生の問題で、失業と健康に

関する演題は、「失業と健康に関する国際的動向」
と題した日本の場恒孝らの一題のみであった。失
業の問題はいまだ未熟である印象をもった。

われわれは就労中の健康問題のみでなく、失業問
題にも注目すべき時期に来ていると思う。経済のグ
ローバル化で失業が日常茶飯事になった今日、失
業者を労働者予備軍とみなす発想が大切である。



失業を福とするには・・・

的場恒孝 (仕事ストレスコーピング研究所)

昨今の経済事情の変遷からみると、就労—失業—就労—失業・・・のパターンが恒常的な様相を呈するようになることが推測される。このような情勢の変化に、どのように対応したら良いのだろうか？

われわれが雇用関係をもつ労働生活を考えるとき、自分の生涯の約半数の年月を労働生活に費やすことになる。40年余の長い年月である。労働生活を人生の中でどのように位置づけるかを考えなくてはならない時代の到来である。そのように考えると、仕事以外に、趣味を持ち、ボランティア活動をし、また近隣の人々との交流を持つのが良いのではなかろうか。“仕事人間”という言葉は死語に思えないと思わないと思う。

このようにみると、失業は労働の一部、一過程で

あると見なせるようになる。そして人生における一時期の休暇と見なしたら、どうであろうか。われわれは“雇用関係をもつ労働”をあまりにも過大評価しているようにも思える。それを社会的出世の目標、自己満足のための目的、単一仕事への達成感を求めすぎているのではないのではなかろうか。

社会的にも失業状態を過大に評価せずに、普通に受け止めるような心理状態にしなくてはならないと思う。沖縄では、マスコミが騒ぐほどに失業を深刻に受け止めていないように見える。家庭や社会が、悠然と受け入れている。これを最善とは思わないが、何かで受け止める状態が好ましいことには変わらない。われわれは人生の中の一過程としての“就労”、“失業”と捉えることが大切であると思う。

お知らせ

◆おめでとうございます。研究会が一步前進することを願っています。
よろしくご協力ください。

◆第5回研究会は、**3月15日** (土曜日) 14:00—17:00 です。

*予定プログラムは

講演「生涯健康を考える」高田和美 (産業医大客員教授)

事例提示：①田村昭彦 (社会医学研究所)

②森本紀巳子 (久留米大学医学部)

*会場は久留米大学医学部構内・筑水会館1F会議室です。

◆本誌“News Letter”を入用の方は、お知らせ下さい。

世話人：的場恒孝 (代表)・高田和美・酒井 淳・石竹達也・山岡春夫・児玉英嗣

[事務局] 福岡県久留米市宮の陣1丁目1-70 (〒839-0801) 宮の陣病院気付
仕事ストレス コーピング研究所内 “失業と健康” 研究会事務局
Fax: 0942(33)8862 Tel: 0942(32)1808